▲▼▲第42回クリエイティブサロン（2016年 3月19日）開催報告▲▼▲

第１部講演会：「千葉工大の未来ロボット研究・教育の秘密」

講師：富山健　（千葉工業大学未来ロボット技術研究センター）

我々はロボットとは、感じて・考えて・動くもの、と定義しているが、まずその起源と歴史を紹介した。遠くギリシャ時代のホメロスの叙事詩にも、人間の持つロボット（のようなもの）に対する強い憧れが記述されている。日本におけるロボットに対する特異な親和性の背景はからくり人形などにあることは周知であるが、その起源は陰陽師の使役した式神にあることを指摘した。

次に、千葉工大未来ロボティクス学科における教育の特徴を挙げた。例えば、1年から3年までのロボット設計制作論では、すべて目的だけを与えそれをどうクリアするかは学生個人に任されているPBL形式で進められる。他に、SI-LAB(Social Implementation Lab.、社会実装演習)という、未来ロボティクス学科、デザイン科学科、プロジェクトマネジメント学科の3学科にまたがる学科横断型のPBLも行われている。この要は学生チームを介護の現場に行かせ、そこでのニーズにロボット技術のシーズをマッチングした製品を考えさせ、その試作からビジネスプランの作成までをやらせることである。2014年度には3組中2組がある学生ビジネスコンテストで最終10組に残り奨励賞を獲得している。

また、未来ロボット技術研究センター（fuRo）の存在は常に学生達を刺激し、高い技術とそれを支える研究員達の妥協のない態度は学生の良きお手本であり目標となっている。fuRoのロボットが福島原発事故現場に投入されたのも事故後すぐ現場近くに赴き、情報収集と我々のロボットの周知を粘り強く行ったこと、その情報によって時期を失せずロボットの改良を行えた（カメラレンズの高湿度対策など）こと、などが要因となっている。

このように、研究における本当の現場に求められる真剣なニーズをキャッチする態度と、学生達が自分から動くことをデフォルトとする教育とが千葉工大におけるロボット研究・教育の秘密である。

（記事: 富山健）

第2部ワークショップ：「未来価値創造のための『社内ドリプラ』」

講師：篠田法正（（社）最幸経営研究所代表理事・中小企業診断士）

「社内ドリプラ」とは、「会社内で行うドリームプランプレゼンテーション」の略称です。職場の数人単位で構成されるチームの代表者が、「理想の会社」で実現したい夢の事業プランについて10分間のプレゼンテーションを行います。ただし、夢を説明するのではなく、夢が実現した世界を映像と音楽の入ったストーリーで、体験させるプレゼンテーションです。プレゼンまでの準備期間は数か月。チームのメンバーは、この期間中、発表者をやる気にさせ、夢をふくらませ、価値を明確にし、どうしたら共感してもらえるプレゼンになるかを一緒に考え、悩みながら応援します。その過程で、参加者は自分たちの仕事の意味や使命に気づき、自立型姿勢、相互支援等を実践的に身に付けていきます。社内ドリプラは、すでに大手企業を含め、種々の業種の企業、病院等で実施されています。

ワークショップでは、夢の事業を想定し、その事業価値を最大化するための創造性を高める手法として、ドリームキャラクター法をご紹介し、体験してもらいました。自分の分身としての理想のキャラクターをデザインし、そのキャラクターに質問することで、客観的に課題を捉え、潜在意識からのアイデア発想を誘います。デザイン思考、芸術思考に基づくワークです。ドリームキャラクター　ワークシートの記載内容は、

・キャラクターのイラスト（出来るだけ詳細に、カラフルに）　ーキャラクターのつぶやき記入。
　「口ぐせ」、「夢がかなった時になんて言う」、「こんな性格です」
・未来：「こんな事したい」（将来の夢など）
・現在：「こんな事している人です」（仕事や趣味など）
・過去：「こんな事してきました」（学業や仕事など）
・名前、身長、出身高校、卒業大学、住んでいる所（理由も）、誕生日、生まれた所、年収。

（記事: 篠田法正）